

3 2 1

1 質としても量としても
史上最大級の大回顧展です。

2 これまでにないほどのスケールで
欧米からフジタ作品が結集します。

3 代表作として名高い「乳白色の裸婦」
10点以上を一堂に展示します。



明治半ばの日本で生まれ、80年を超える人生の半分以上をフランスで暮らし、晩年にはフランス国籍を取得して欧州の土となったエコール・ド・パリを代表する画家・藤田嗣治（レオナルド・フジタ 1886-1968）。2018年は、藤田が世を去って50年の節目に当たることから、日本はもとよりフランスを中心とした欧米の美術館の協力を得て、画業の全貌を展観する大回顧展を開催します。本展覧会は、制作年順に各時代を代表する「風景画」「肖像画」「裸婦」「宗教画」などのテーマを設け、新たな視点も加えながら、藤田芸術をとらえようとする試みです。藤田の代名詞でもある「乳白色の裸婦」の代表作はいうまでもなく、初来日となる作品、これまで紹介される機会の少なかった作品など、見どころが満載の展覧会です。

FOUJITA

Léonard Foujita: A Retrospective

没後50年 藤田嗣治展

東京

2018年7月31日|火|

—10月8日|月・祝|

東京都美術館

京都

2018年10月19日|金|

—12月16日|日|

京都国立近代美術館

主催 | [東京] 東京都美術館 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション

[京都] 京都国立近代美術館、朝日新聞社、NHK 京都放送局、NHK ブラネット近畿

特別協力 | 国際交流基金